

2019年度国文学研究資料館 特別共同利用研究員受入要項

1. 目的

大学の要請に応じ、大学院における教育に協力するため、当館に「特別共同利用研究員」を受け入れ、必要な研究指導を行う。

2. 特別共同利用研究員

特別共同利用研究員とは、国立大学法人法に基づき、大学共同利用機関である国文学研究資料館において研究に従事し、併せて研究指導を受ける大学院学生をいう。

3. 受入人員

10名程度

4. 受入対象

大学院の博士課程又は修士課程に在籍し、日本文学、日本史学及びこれらに関連する分野を専攻する者

5. 受入期間

2019年4月 ～ 2020年3月

なお、特別共同利用研究員の研究状況により、所属する大学院及び本人の申出があった場合、館内で審査のうえ1年の延長を認めることがある。

6. 研究指導場所

国文学研究資料館（東京都立川市緑町10-3）

7. 指導教員及び研究指導分野

特別共同利用研究員の指導教員及び研究指導分野は別紙「国文学研究資料館 特別共同利用研究員 研究指導概要一覧」のとおり。

応募書類を提出する前に、希望する当館の指導教員に必ず連絡を取り、研究指導の方法や内容等について相談した上で応募手続きを行うこと。希望する教員への事前連絡がない場合、原則として応募の受付を行わない。

なお、希望する指導教員以外が研究指導を行う場合がある。

8. 提出書類

- (1) 所属する大学院研究科長の委託書（様式1）
- (2) 所属する大学院指導教員の推薦書（様式2）
- (3) 当該学生の在学証明書及び成績証明書
- (4) 当該学生の略歴（様式3）
- (5) 研究業績（様式4）
- (6) 研究計画（様式5）

9. 提出期限

2019年4月12日（金）（必着）

10. 研究指導に係る費用

無料とする。

11. 受入の決定

提出された書類に基づき、当館大学院教育委員会で審査の上、館長が決定し、その結果を所属する大学院の研究科長及び本人に通知する。

12. その他

- （1）特別共同利用研究員制度により受け入れた学生に対する単位の認定及び学位論文の審査や学位の授与に関しては、当該学生が在籍する大学院で行うことを前提としており、当館は直接関与するものではありません。
- （2）当館では、災害補償制度は準備しておりません。あらかじめ所属大学で、財団法人日本国際教育支援協会の行っている学生教育研究災害傷害保険等に参加してください。
- （3）当館は、特別共同利用研究員の宿舎の用意はありません。
- （4）当館の研究、事業および教員紹介については、ホームページ（<https://www.nijl.ac.jp/>）を参照してください。

【関係書類の提出先及び問合せ先】

〒190-0014 東京都立川市緑町 10-3

国文学研究資料館

総務課 教育支援係

TEL : 050-5533-2915

FAX : 042-526-8604

E-mail : edu-m11@nijl.ac.jp

National Institute of Japanese Literature
Special Inter-University Research Fellows
Application Guidelines for the 2019 academic year

1. Purpose of this program

The purpose of this program is, as the part of our contributions to society, especially to higher education in graduate programs, to provide research supervision and guidance to graduate students who are majoring in fields related to our institute.

2. Special Inter-University Research Fellows

Special Inter-University Research Fellows represents, under the National University Corporation Act, graduate students who are engaged in research at the National Institute of Japanese Literature (NIJL) which is an Inter-University Research Institute Corporation and also who receive research supervision.

3. Number of students NIJL plans to accept for the 2019 academic year

Approximately 10 students.

4. Eligibility Requirements

Each applicant must be a student enrolled in graduate programs (doctoral or masters) majoring in Japanese literature, Japanese history studies or related fields.

5. Duration

The program starts in or after April 2019 and it ends by the end of March 2020.

Please note that an extension up to one year may be permitted with approval of in-house review in NIJL depending upon the state of the research in which the student is engaged when both the student and the university that the student is enrolled seek for extension.

6. Host Institute (Research Laboratory)

National Institute of Japanese Literature
10-3 Midori-cho, Tachikawa, Tokyo 190-0014, Japan

7. Supervisors and Research Interest

Please see the list of faculty members and their research expertise that separately provided.

Please note that each applicant must contact his/her intended host faculty member and have consultations with him/her regarding on the research supervision and guidance that the faculty offers prior to submitting the application. No application will be accepted without having the consultation with the intended host faculty member beforehand. In addition, please be advised that research supervision and guidance might be provided by other faculty members.

8. Required Application Documents

- a. Written request by the head of the graduate school where the applicant is enrolled in [Form 1]
- b. Letter of Recommendation by the academic supervisor/advisor of the applicant [Form 2]
- c. Certificate of Enrollment and Transcript
- d. Curriculum Vitae [Form 3]
- e. Publication List [Form 4]
- f. Research Proposal [Form 5]

9. Submission Deadline

The application documents must arrive no later than April 12, 2019.

10. Fees for Research Supervision and Guidance

This program is tuition-free. No tuition fee is required.

11. Notification of Selection Results

After careful examination of the application form, the results will be notified to the applicant and the university where he/she belongs.

12. Other Information

- a. NIJL will not be involved with the approval of credits, thesis examination and degree conferment of the graduate students who were accepted as a research student of this program. Those procedures must be done at their home graduate school.
- b. NIJL does not offer any accident compensation insurance to students. All students are strongly advised to purchase the personal accident insurance for students pursuing education and research offered by Japan Educational Exchanges and Services through their home university. Foreign students need to purchase accident compensation insurance in their own country.
- c. NIJL does not offer any accommodation for Special Inter-University Research Fellows.
- d. Please refer to our website (<https://www.nijl.ac.jp/>) about our research, projects and faculty members.

[Please send all forms to the address below]

National Institute of Japanese Literature

General Affairs Division, Educational Support Section

10-3 Midori-cho, Tachikawa, Tokyo 190-0014, Japan

TEL : 050-5533-2915 FAX : 042-526-8604 E-mail : edu-m11@nijl.ac.jp

***Please contact us via email if you have any further questions.**

2019年度 国文学研究資料館特別共同利用研究員 研究指導概要一覧

分野	研究指導概要		指導教員
中世文学	中世文学・中世芸能の研究	中世の文学および芸能の諸作品について、それらに関わる資料の調査と分析を重視しつつ研究を行う。なお希望に応じ、古典籍資料の扱い方や調査方法・研究方法についても指導する。	落合 博志
	中世文学の研究、特に説話に関する研究	中世から近世にかけて、寺社を舞台として伝承された説話や室町物語などを主な研究対象として取り上げる。これらと関連する絵画資料や郷土資料、民俗資料等を視野に入れ、作品の成立基盤や時代背景、および関連する人物などについて考究し、文学史的位置付けを行う。	齋藤 真麻理
	和漢比較文学研究	日本文学に影響を与えた漢籍の分析と受容の研究を、翻訳説話の受容と表象の視点から、原典読解の視点で分析を行う。今年度は、『今昔物語集』に影響を与えた漢籍の視点から『蒙求』(故宫博物院本)『真報記』(前田家尊経閣本)『三宝感応要略録』諸本の読解を行うことで分析を進める。	相田 満
	中世和歌、堂上の学問と儀礼に関する研究	中世の和歌、歌学書、注釈書、伝書などの諸論書、及び、中世から近世初頭にかけて著された堂上公家の学問と儀礼に関する諸文献や記録資料につき、文献学的検討を通じた資料批判と検討を行い、その文化史的意義について考える。	海野 圭介
	中世文学の研究、特に物語・説話、寺院資料の研究	室町時代から江戸時代にかけて盛んに作られた物語草子を対象として研究をおこなう。関連説話や寺院資料なども取り上げながら、対象とする作品の特徴や意義について考察し、作品形成の場や受容の様相の解明を目指す。	恋田 知子
	中世仏教と文学の研究、臨済宗を中心に	室町末期(応仁の乱前後)から臨済宗に起こった思想的変換を検討する。仏教学的な観点からの研究と同時に、文学などを通して禅宗の教えをどういう形で社会へ発信されたことを考察する。後に主流となった大徳寺と妙心寺の公案禅を主な対象とする。	ダヴァン ディディエ
近世文学	草双紙・浮世絵等の書誌的・注釈的研究と、周辺文芸との関わり	近世期草双紙や浮世絵等の書誌的・注釈的研究。草双紙においては、歌舞伎・浄瑠璃との関わり、浮世絵においては、文芸との関わりや受容等を明らかにする。	山下 則子
	近世出版文化の研究	出版物を様式的に把握することを目的とする。写本と同様、出版された書物にも大きさや装丁など、様式がある。写本に比べ、手工業製品としての出版物は、技術的・経済的理由により、強固に様式化される面も見られる。出版物のモノとしての側面に光をあて、様式上の問題を、具体例に則して考察してゆく。	入口 敦志
	和歌史・学芸史の研究	私撰集・私家集・歌論歌学書などの歌書に基づいて、堂上と地下の諸問題、近世における注釈の種々相などを具体的に追究する。また、歌壇史・文壇史研究を射程に入れた伝記研究にも留意したい。	神作 研一
	近世中後期小説の研究	18世紀後半(おおそ宝暦年間)以降の近世小説について、注釈ならびに解釈を軸に、作者・画工・書肆・書写者など作品をとりまく営為をも視野に入れた研究を行う。	木越 俊介

分野	研究指導概要		指導教員
近代文学	近代文学の研究	近代文学成立期における言説編成の研究	谷川 恵一
	19世紀文学の研究	幕末から明治初頭にかけてのメディアの変革期に出版された小説や和学関連書冊ならびに作者について、その文学史上における位置づけ、人的ネットワークなどに配慮しつつ、具体的に探究する。	山本 和明
	近代文学の研究	1910年前後の文学を対象に、出版メディアと社会の様態変容を視野に入れつつ、社会文化史的に研究する。	青田 寿美
	近代文学の研究	日本近代長編小説の研究。東洋古典の長編詩文、および、西洋近代の長編小説を併せ読みながら、長編文学の成り立ちを解明する。	野網 摩利子
情報学	文学情報処理	古今の文学テキストを題材にして、自然言語処理の立場からコンピュータを利用したテキスト解析手法について実証的な研究を行う。	野本 忠司
日本史学	幕府・藩の組織構造と文書群の史料学的研究	幕府・藩の組織構造と文書群の関わりに注目し、文書の発生、文書群の形成、文書の授受、管理システム、各種文書のライフ・サイクル、当時の文書認識、文書群の伝来などについて検討する。史料を取り扱う人々の基礎的な研究となることを目指したい。	大友 一雄
	記録史料の保存管理史・保存科学に関する研究	多様かつ膨大な記録史料を永く物理的に保存するため、保存管理の歴史的特質を明らかにするとともに、保存科学的観点からの環境管理方法や材質分析についての研究を行う。	青木 睦
	近世情報史の研究	近世都市の災害情報について考える。具体的には、①情報伝達と災害対応、②災害対応・対策の情報蓄積、③情報の伝播、という三つの論点がある。	渡辺 浩一
	公家家職の地域展開と地域資料	主に近世の公家家職が地域の人びとにどのような広がりをみせたか、地域に遺された資料群総体の中で考える。近世天皇・朝廷研究に収斂することなく、地域史のひとつとして研究を行う。	西村 慎太郎
	近世の地域行政に関する史料学的研究	各地の奉行所・代官所や村方・町方に遺された史料群の構造分析を通じて、江戸幕府・諸藩の地域行政のあり方を考える。特に、各地域の自然環境や生産活動などの違いに伴う文書類の作成・管理・保存の相違や特色などにも注目して研究を行う。	太田 尚宏
アーカイブズ学	近現代文書管理史研究	公文書の作成から廃棄・保存にいたる管理システムの変遷の歴史および公文書を補完する私文書の特性について、具体的文書を参考にしながら研究を行う。	加藤 聖文
	アーカイブズ学	多様かつ膨大な記録史料(アーカイブズ)を永く保存し、現代と未来の社会に活用するための学問であるアーカイブズ学について幅広く研究する。記録史料論、記録史料管理論を柱にして、記録史料の収集・整理・保存・利用に関する研究を深める。	大友 一雄 青木 睦 渡辺 浩一 西村 慎太郎 太田 尚宏 加藤 聖文

National Institute of Japanese Literature
Special Inter-University Research Fellows
List of Faculty and Research Expertise for the 2019 academic year

Area	Research Expertise and Interest	Faculty Name
中世文学 Medieval Japanese Literature	中世文学・中世芸能 Medieval Japanese Literature, Medieval Japanese Performance Arts	Hiroshi Ochiai
	中世文学、特に説話 Medieval Japanese Literature, especially Narratives	Maori Saito
	和漢比較文学 Wakan Comparative Literature	Mitsuru Aida
	中世和歌、中世・近世の公家の学問と儀礼 Medieval Waka, Knowledge and Rituals of Court Nobles in Medieval and Early Modern Japan	Keisuke Unno
	中世文学、特に物語・説話、寺院資料 Medieval Japanese Literature, especially Tales and Narratives, and Temple Materials	Tomoko Koida
	中世仏教と文学 Zen Buddhism and Japanese Literature in the Middle Ages	Divin Didier
近世文学 Early Modern Japanese Literature	草双紙・浮世絵等の書誌的註釈的研究と、周辺文芸との関わり Bibliographical and annotational studies of Kusazōshi and Ukiyo-e and the relations with other literary works in the similar area	Noriko Yamashita
	近世出版文化 Early Modern Japanese Print Culture	Atsushi Iriguchi
	和歌史・学芸史 History of Waka, History of Arts and Sciences	Kenichi Kansaku
	近世中後期小説 Mid-late Early Modern Novels	Shunsuke Kigoshi

Area	Research Expertise and Interest	Faculty Name
近代文学 Modern Japanese Literature	近代文学 Modern Japanese Literature	Keiichi Tanikawa
	19世紀文学 19th-century Japanese Literature	Kazuaki Yamamoto
	近代文学 Modern Japanese Literature	Sumi Aota
	近代文学 Modern Japanese Literature	Mariko Noami
情報学 Informatics	文学情報処理 Computational Literature	Tadashi Nomoto
日本史学 Japanese History	幕府・藩の組織構造と文書群との関係 The Relation between Organizational Structure of the Shogunate and Domains and the Document Group	Kazuo Otomo
	記録史料の保存管理史・保存科学 Preservation Management History and Conservation Science for Archives	Mutsumi Aoki
	近世災害情報史 Early Modern Disaster Information History	Koichi Watanabe
	公家家職の地域展開と地域資料 Development of the Court Aristocracy in Regions in Early Modern Japan and Regional Materials	Shintaro Nishimura
	近世の地域行政に関する史料 Historical Materials of Local Government in Early Modern Japan	Naohiro Ota
	近現代文書管理史 History of the Modern Document Management	Kiyofumi Kato
アーカイブズ学 Archival Studies	アーカイブズ学 Archival Studies	Kazuo Otomo Mutsumi Aoki Koichi Watanabe Shintaro Nishimura Naohiro Ota Kiyofumi Kato



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

2019
年度

国文学研究資料館 特別共同利用研究員 募集

国文学研究資料館では下記のとおり、
2019年度特別共同利用研究員を募集します。

受入人数 10名程度

受入対象 大学院の博士課程又は修士課程に在籍し、
日本文学、歴史学及びこれらに関連する分野を
専攻する者

受入期間 2019年4月～2020年3月

書類提出期限 2019年4月12日(金)(必着)

提出書類入手先 国文研 特別共同利用研究員

検索

<http://www.nijl.ac.jp/activity/education/researcher/>
応募方法等については当館ホームページにてご確認ください。

関係書類提出先および問い合わせ先

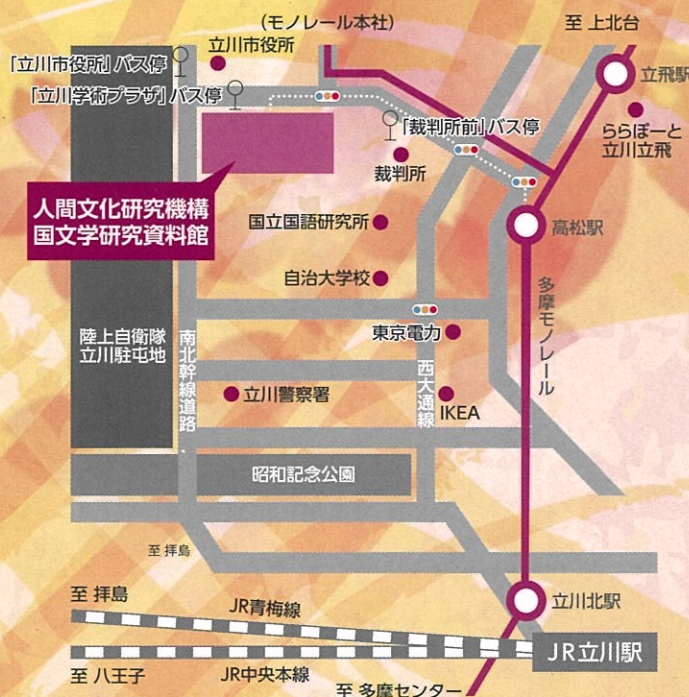
〒190-0014 東京都立川市緑町10-3

国文学研究資料館 総務課教育支援係

TEL: 050-5533-2915

FAX: 042-526-8604

E-mail: edu-ml1@nijl.ac.jp



交通のご案内

多摩都市モノレール利用の場合

JR 立川駅下車、多摩モノレール立川北駅に乗り換え、高松駅下車、徒歩10分

立川バスの場合

JR 立川駅北口②番のりば乗車、「立川学術プラザ」バス停下車、徒歩1分

JR 立川駅北口②番のりば乗車、「裁判所前」バス停下車、徒歩5分

JR 立川駅北口①番のりば乗車、「立川市役所」バス停下車、徒歩3分



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館